

地域医療連携検討ワーキンググループ(作業部会)等開催状況

日時/会議種別	主な議題	主な課題・問題点等(抜粋)
H23.7.25(月) 地域医療連携検討ワーキンググループ	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療再生計画について 救急医療及び周産期医療に係る実態調査の結果について ポスト急性期患者受入可能病院調査結果について 病院間連携協議状況について 	<ul style="list-style-type: none"> 圏域を越えた連携ということは、非常に重要だと考えているが、なかなか進展しないような気がする。 周産期のお産について、病院のほうは多少余裕があると思うが、診療所はこれ以上増えることは難しいので1つの施設でもお産をやめられると厳しい状況になるのではないかと。 軽症の救急搬送がかなり多いので、一宮市休日・夜間急病診療所の周知PRをより一層お願いしたい。 今年度は、連携運営委員会についての、日程はまだ決まっていないが、新病院について、連携病床として50床ほど予定しているので協議をすすめながら上手に活用したい。

日時/会議種別	主な意見(要旨)
H23.9.28(木) 救急医療部会	<ul style="list-style-type: none"> 依然として病院への軽症患者受診が多い。 一宮市民病院等(大雄会、一宮西)に一般救急の患者が集中し、緊急性の高い疾患への対応に十分にシフトできない。 精神・身体合併症については、救急病院において精神患者に対する身体症状の処置が終わった後の受入先の確保が困難。 診療所の分娩対応に余裕がない。
H23.9.7(木) 周産期医療部会	<ul style="list-style-type: none"> 分娩については、地域で完結できている。母体も新生児も一宮市民病院等でほとんど断ることなく受け入れている。 診療所で緊急の帝王切開があった場合、他の医療機関産科医の応援を受けて実施するケースがあるが、産科医不足で開業医がだんだん少なくなり、また、医師高齢で分娩をとりやめたりすると、総合病院に負担がかかってしまう心配がある。 内科、小児科については、昨年11月から一宮市休日・夜間急病診療所で平日夜間診療を実施しているが、利用率が低く、市民に平日夜間診療について十分伝わっていないのではないかと。もっとPRが必要ではないかと。 スクリーニングがされていない患者さんの搬送については、何か大きな病気が隠れていたりするリスクが大きく対処に困ってしまう場合があり、開業医で受け入れするより、公立の医療機関で受け入れてもらったほうが望ましいのではないかと。 母体搬送・新生児搬送するときに非常によいと思うので、産科標榜の病院の先生にも、この部会の議論に参加してほしい。

2年間の まとめ	【今までの取組で成果がみられたもの】
	・ 軽症者が病院の時間外外来を受診し、病院勤務医の疲弊を招いている(外来救急医療の定点化の推進)。
	【取組内容】
	・ 一宮市休日・夜間急病診療所で平日夜間診療を拡大(平成22年11月から)。
	・ 休日急病診療所等の1次救急を受診するよう市・病院等が啓発推進。
	【将来的な課題】
	・ 今後、救急搬送の増加に伴い、重症患者の受入に支障が生じる可能性がある。
	・ 診療所における分娩については、余裕がないため、将来支障が生じる可能性がある。
	【その原因】
	<ul style="list-style-type: none"> 高度救命救急医療機関に軽症患者が集中して、重症患者の対応が十分シフトできない。 産科医不足に伴い、診療所開業医の高年齢化。
【今後の取組】	
<ul style="list-style-type: none"> 圏域内にある他の一次救急・二次救急の医療機関への受入を一層推進する。 圏域内における周産期医療について診療所と病院との連携を一層推進する。 	

病院間の連携協議状況

圏域名	尾張西部医療圏	
病院名	一宮市立市民病院	稲沢市民病院
有識者会議報告書の記載内容	○一般救急医療機能の低下を防ぐ必要があるため、稲沢市民病院については、適正病床数への移行を図りつつ、将来的に一宮市立市民病院の機能強化を図った上で、一宮市立市民病院との医師の応援体制も含めた医療機能連携を進める必要がある。	
協議会設置	平成21年5月設置	
名称	一宮市立市民病院・稲沢市民病院医療連携運営委員会	
構成員	一宮市立市民病院:院長、副院長、診療部長 稲沢市民病院:院長、副院長、診療局長	
協議状況	平成22年度	平成23年度
	<p>日時:平成22年6月18日(金) 場所:一宮市立市民病院 協議内容:新稲沢市民病院基本構想策定にあたり、一宮市立市民病院との連携について基本構想に盛り込むことの了解及び両院にお医療連携の仕様(疫病別の機能連携)について協議</p>	<p>日時:平成23年12月19日(月) 場所:一宮市立市民病院 協議内容:医療連携の現状と問題点について協議</p>
病院間連携状況 再編統合 医師派遣 患者紹介 その他	平成22年度	平成23年度
	<p><平成22年度実績> 機能が不足する診療科の医師の派遣として、一宮市立市民病院から稲沢市民病院へ小児科医師を派遣(2名を週各1回) 派遣日数 86日 派遣人数 86人 患者紹介数 一宮市民 ← 稲沢市民 368人 一宮市民 → 稲沢市民 41人</p>	<p><平成23年度実績> 機能が不足する診療科の医師の派遣として、一宮市立市民病院から稲沢市民病院へ小児科医師を派遣(1名を週1回) 派遣日数 33日 派遣人数 33人(H23.12現在) 小児科外来患者数 稲沢市民病院 一宮市立市民病院 1,870人 25,237人 (H22.4-12) 2,065人 21,413人 (H23.4-12) 小児科患者紹介数 (H23.12現在) 一宮市民 ← 稲沢市民 5人 一宮市民 → 稲沢市民 4人 紹介患者総数 一宮市民 ← 稲沢市民 119人 一宮市民 → 稲沢市民 70人</p>